

行財政改革審議会 分科会A関係資料
「経常的経費の見直し・刷新」

平成24年6月26日提出 掛川市

委員から要請があった資料

1 公債費

(単位:千円)

区分	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
H21までの借入分の償還額 A	5,383,642	5,450,047	5,248,984	5,043,758	4,634,457	4,143,999	3,764,722	3,167,879	2,702,774	2,459,106
各年度の借入に伴う元利金 B	169,593	109,695	225,243	334,920	713,165	1,885,361	1,369,614	1,788,466	2,156,900	2,348,487
長期財政見通し表「公債費」欄の額 A+B	5,553,235	5,559,742	5,474,227	5,378,678	5,347,622	6,029,360	5,134,336	4,956,345	4,859,674	4,807,593

(1)H22 5,553,235千円 → H31 4,807,593千円 減△745,642千円 ⇒ これを、削減額17億円のうちの公債費746,000千円として設定。

(2)H22 5,553,235千円 → H28 5,134,336千円 減△418,899千円

(3)H27償還額の1,885,361千円には、繰上償還額800,000千円を含む。

(償還財源は、財政健全化基金。H25末の現在高4億円にH26において4億円を積み立て8億円を確保した上でH27に取り崩し。)

※参考

(単位:千円)

区分	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
長期財政見通し表「地方債」欄の額	3,656,500	3,850,800	3,660,600	5,571,800	4,866,800	2,354,000	2,321,100	2,260,500	2,234,900	2,181,200
うち合併特例債事業	1,076,400	1,265,000	981,000	1,024,000	929,000	0	0	0	0	0
うち臨時財政特例債	1,887,000	1,830,000	1,775,000	1,721,000	1,669,000	1,618,000	1,569,000	1,521,000	1,475,000	1,430,000

(1)合併特例債事業とは、主に南北道路建設事業。

(2)臨時財政対策債とは、地方交付税として交付するべき財源が不足した場合に、地方交付税の交付額を減らし、その穴埋めとして地方公共団体に地方債を発行させるもの。

償還に要する費用は後年度の地方交付税で措置される。

(3)それ以外の地方債としては、市道整備、河川整備、消防防災施設整備、小中学校施設整備事業などに充てられるものがある。

2 普通建設事業費

(1)事業費の状況

(単位:千円)

区分	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
普通建設事業費	5,437,429	5,528,876	5,278,271	5,194,816	7,006,313	4,605,914	4,780,741	4,643,416	4,865,405	4,771,033
(1)うち主要プロジェクト事業	957,393	3,043,315	2,605,900	1,406,900	3,063,700	711,680	373,070	215,070	175,480	175,480
①駅前東街区再開発事業	88,800	1,081,200	440,000	0	0	0	0	0	0	0
②南北道路整備事業	613,593	1,432,115	1,103,600	1,190,900	1,153,700	239,680	215,070	215,070	175,480	175,480
③新病院アクセス道路整備事業	255,000	450,000	403,000	176,000	452,000	452,000	158,000	0	0	0
④大東体育館建設事業	0	80,000	640,000	0	0	0	0	0	0	0
⑤中央消防署建設事業	0	0	19,300	40,000	1,458,000	20,000	0	0	0	0
(2)うちその他事業	4,480,036	2,485,561	2,672,371	3,787,916	3,942,613	3,894,234	4,407,671	4,428,346	4,689,925	4,595,553

↑ 建設投資のピーク年度

(2)地方税の見込み

(単位:千円)

区分	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
長期財政見通し表「地方税」欄の額(A)	19,160,471	19,826,476	20,455,656	21,068,603	21,614,067	21,874,163	22,307,969	22,549,215	22,492,059	22,661,696
第1次行革審提言(H23当初予算額でFIX)(B)	19,160,471	20,068,061	20,068,061	20,068,061	20,068,061	20,068,061	20,068,061	20,068,061	20,068,061	20,068,061
長期財政見通しと行革審との差(B)-(A)	0	241,585	△ 387,595	△ 1,000,542	△ 1,546,006	△ 1,806,102	△ 2,239,908	△ 2,481,154	△ 2,423,998	△ 2,593,635

(3)繰出金、扶助費の状況

(単位:千円)

区分	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
①繰出金	3,771,195	3,671,792	3,676,556	3,682,909	3,841,984	3,971,163	4,133,599	4,212,245	4,347,502	4,497,706
主なもの										
・国民健康保険	1,178,252	1,032,252	798,252	700,000	700,000	700,000	700,000	700,000	700,000	700,000
・介護保険	1,100,849	1,174,433	1,254,875	1,295,227	1,384,839	1,474,623	1,537,895	1,594,136	1,670,639	1,755,650
・後期高齢者医療	219,950	230,480	236,809	243,326	250,037	256,947	264,063	271,390	278,935	286,705
・公共下水道	984,657	969,684	1,053,430	1,115,235	1,166,186	1,178,114	1,249,602	1,289,581	1,326,840	1,374,280
②扶助費	5,943,779	6,605,690	6,580,919	6,580,684	6,567,620	6,557,429	6,518,538	6,493,937	6,456,278	6,419,148

※H22⇒H31の伸び 繰出金726,000千円(H28までは362,404千円)、扶助費475,369千円(H28までは574,759千円)

3 新病院建設事業関連経費

(1)算入した関連経費

(単位:千円)

区分	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
(1)新病院建設組合負担金	137,128	68,855	113,644	0	0	0	0	0	0	0
(2)新病院への繰出金(一部事務組合負担金)	0	0	0	891,600	856,200	856,200	858,000	892,800	547,200	570,000
(3)新病院アクセス道路整備事業	255,000	450,000	403,000	176,000	452,000	452,000	158,000			
歳出計	392,128	518,855	516,644	1,067,600	1,308,200	1,308,200	1,016,000	892,800	547,200	570,000
上記の財源内訳										
①国庫補助金	102,000	180,000	161,000	70,000	181,000	181,000	63,000	0	0	0
②基金繰入金	0	270,000	242,000	0	0	0	0	0	0	0
③一般財源	290,128	68,855	113,644	997,600	1,127,200	1,127,200	953,000	892,800	547,200	570,000

(2)新病院の繰入金(3条・4条予算)

(単位:千円)

区分	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
掛川市・袋井市からの繰入金	0	0	0	1,486,000	1,427,000	1,427,000	1,431,000	1,498,000	912,000	950,000

4 貸付金の内訳

H22 1,375,287千円の内訳

- ①勤労者住宅建設資金貸付金 1,169,493千円
- ②勤労者教育資金貸付金 90,455千円
- ③保留地購入資金貸付金 108,639千円
- ④災害援護資金貸付金 6,700千円

5 行政職員数等の削減計画

(1)現在の計画(行政職員)

(単位:人)

区分	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
(1)各年度4月1日現在数	828	820	808	801	797	796	794	793	791	788
(2)退職者数 A	△ 22	△ 33	△ 24	△ 18	△ 29	△ 25	△ 17	△ 25	△ 26	△ 26
①うち一般行政職	△ 15	△ 16	△ 19	△ 14	△ 23	△ 19	△ 13	△ 13	△ 18	△ 18
②うち幼児教育士・保健師	△ 4	△ 5	0	0	△ 2	△ 2	△ 3	△ 10	△ 2	△ 4
③うち消防士	△ 1	△ 2	△ 1	△ 1	0	△ 2	△ 1	△ 1	△ 3	0
④うち技能労務職	△ 2	△ 10	△ 4	△ 3	△ 4	△ 2	0	△ 1	△ 3	△ 4
(3)採用者数 B	14	21	17	14	28	23	16	23	23	22
(4)差し引き増減 A-B	△ 8	△ 12	△ 7	△ 4	△ 1	△ 2	△ 1	△ 2	△ 3	△ 4
(5)削減累計	△ 8	△ 20	△ 27	△ 31	△ 32	△ 34	△ 35	△ 37	△ 40	△ 44

※H17～H31までの削減累計は減△140人

(2)現在の計画(非常勤職員)

(単位:人)

区分	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
(1)各年度4月1日現在数	283	297	300	302	303	305	304	302	301	301
①うち一般職	159	166	157							
②うち幼児教育士・保健師	57	60	67							
③技能労務職	67	71	76							
(2)年度内増減	14	3	2	1	2	△ 1	△ 2	△ 1	0	△ 2
(3)削減累計	14	17	19	20	22	21	19	18	18	16

※H17～H31までの削減累計は減△9人

1 現在の行政職員数削減計画

平成17年度に策定された計画がベースで、平成22年度に行財政改革方針の策定に併せ、一部修正が行われた。

(1)平成17年度策定時の考え方

- ①平成17～26年度に128人を削減。(合併時の合意事項である目標値108人の削減数を約2割増)
- ②保健師は、障害者認定や相談業務に対し保健師の配置が重視されることや、特定検診制度の開始に対応するため計画期間中に4人を増員。
- ③幼児教育士は、幼保再編を踏まえつつも、正規化率60%を確保するため、計画期間中の減員は6人に止める。
- ④消防士は、消防庁の整備指針を踏まえ、計画期間中に10人を増強。
- ⑤一般職員は、②～④を優先的に実施した後、削減目標達成のための必要数を減員。

(2)平成22年度一部修正時の考え方

- ・技能労務職の退職者補充はしないが、その他の職種は基本的に100%補充。

2 現在の非常勤職員数削減計画

- ・平成26年度までは、技能労務職の退職不補充代替として確保。それ以降は各年度1～2人の減員を行う。